
日本ロシア文学会会報 第50号 2021年2月

1. 会長挨拶 2. 2020年度第70回総会報告 3. 10月・12月理事会関連事項 4. 会員異動 5. 新役員・委員 6. その他 7. 事務局からのアナウンス 8. ご訃報
-

1. 会長挨拶

2021年2月16日

三谷恵子

2020年2月2日付けで会報にみなさんへのご挨拶を書いたから1年、ニュースで「コロナ」の三文字を見ないことのない日々が続きました。先行きの見えない状況の中、海外渡航や留学はいつになったら叶うようになるのか、資料調査にはまたいつ行けるのか、とストレスフルな一年を過ごした方も多くいらっしゃると思います。

この情報化時代、SNSなどでは、コロナをめぐる偽情報——さまざまな陰謀説や、「ニンニクを食べると予防になる」など中世顔負けの“治療法”が蔓延し、世界を駆けめぐりました。近代的な疫学が発達する前の時代にも疫病は数多くあり、ロシアの年代記作家たちも、たびたび疫病について記しています。多くの場合それは、飢饉や戦乱、異常気象とともに言及され、罪深き人間への神の罰として人々が恐れた様子が描かれています。こうした古い文献を読むと、疫病を敬虔な気持ちで恐れ、神に祈った中世人と、あやしげな情報を鵜呑みにしたりこれを拡散させたりする現代人と、どちらがまともだったかと、おもわず考えてしまいます。

このようなコロナ禍の只中、昨年秋の本学会全国大会は、初のオンライン大会となりました。春の時点では、そもそも全国大会が開催できるかどうか、という議論から出発しなければなりませんでした。貝澤哉組織委員長、ヨコタ村上孝之実行委員長はじめ組織委員会、実行委員会のメンバー、またオンライン大会の実施リーダーとして陣頭指揮にあたった中村唯史副会長や、会員への周知を担当くださった本田晃子広報委員長、ほか多くの会員のみなさんのご協力により、混乱もなく盛況のうちに大会を実現することができました。学会大賞受賞者の中澤敦夫氏の講演も、YouTubeでの公開となり、300回を超える視聴がありました。オンライン会議にはもちろん良し悪しがありますが、多くの方がどこからでも参加できることは大きなメリットであり、学会活動の一つの形として、とくに国際交流の発展のために、今後積極的に取り入れていくべきツールであろうと感じました。

昨年の会報では、若手とくに学生会員の拡充について検討していることをお伝えしましたが、これをいかに具体化するか、目下理事会で検討中です。また、支部制度の見直しも直近の問題となりました。現行の支部制度は1980年代半に作られたものですが、それから四半世紀がたち、会員の減少で支部活動の維持が難しくなっている支部が生じるなど、現状と制度の間に乖離が生じています。これまでの支部制度が形を変えていくことに違和感を覚える方もいらっしゃるかもしれませんが、各支部間との連絡を緊密に取りながら、学会にとっても、各支部にとっても、よりよい体制へと改めていくよう理事会で検討していきたいと思えます。

私からこの会報でみなさんにご挨拶するのは、今号で最後となりますが、今年秋に筑波大学で行われる予定の全国大会の頃には、コロナ禍も下火になり、リアル大会でみなさんにお会いできることを心から祈っております。

2. 2020年度第70回総会報告

第70回定例総会・研究発表会(大阪大学・オンライン大会)は、2020年10月31日(土)、11月1日(日)の両日、Zoomによるオンライン方式で開催されました。10月31日(土)午後開催された定例総会の主な内容は以下の通りです。

- **開会の辞** 会長：三谷恵子(以下敬称略)

三谷恵子会長が開会の辞を述べた。

- **日本ロシア文学会賞表彰** 【著書部門】高橋知之

学会賞選考委員会ヨコタ村上孝之委員長が選考結果の報告を行い、三谷恵子会長名で高橋知之氏に表彰状が授与された。副賞は事務局から送金される。

- **日本ロシア文学会大賞授賞式** 中澤敦夫

日本ロシア文学会大賞選考委員会服部文昭委員長が選考結果の報告を行い、三谷恵子会長名で中澤敦夫氏に表彰状が授与された。副賞は事務局から送金される。受賞記念講演動画はYouTube上で2020年10月31日(土)から11月30日(月)まで一般公開された。

- **議長団選出** 【候補】伊藤愉(関東)・前田しほ(関西)・山路明日太(中部)

該当支部からの推薦に基づき、三名の議長候補が示され、全会一致で承認された。

- **報告事項**

1. 事務局報告

庶務会計野中進から、以下の報告が行われた。

- ・ 配布資料に基づき、会員異動(2019年11月～2020年10月)について、以下の報告が行われた。

○ご逝去(2名) 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

加藤栄一様、米川哲夫様

○入会者(正会員4名)

安島里奈(関東/ロシア・シンボリズム)、推薦者：沼野恭子、前田和泉

奥村文音(関東/フレーブニコフの作品研究)、推薦者：沼野恭子、前田和泉

黒川知文(関東/ロシア宗教史)、推薦者：望月哲男、望月恒子

五月女颯(関東/ジョージア[グルジア]文学)、推薦者：斎須直人、生熊源一

○退会者(正会員15名、賛助会員1名)

青木正博、イワノワ(イブラギモワ)・エレーナ、大谷幸太郎、尾子洋一郎、垣内智夫、狩野亨、河島孝子、キリーロワ・エレーナ、工藤正廣、群像社、小出雅樹、佐伯郁智、佐々木精治、武田清、田辺佐保子、野田素子

- ・ 配布資料に基づき、学会財政レポートが行われた。
- ・ 配布資料に基づき、新型コロナウイルス感染拡大のために経済的被害を受けられた会員の方に対する会費免除について、6名の申請があり、執行部で精査した結果6名全員について会費免除を決定したことが報告された。
- ・ 配布資料に基づき、名簿問題への対応が報告された後、今後の方針について以下のような試案が示され、今後各支部での議論を経て次回理事会で審議することが報告された。

「個人情報保護の観点から、今後、学会としては紙の名簿は作成しない。学会の委員会業務に必要な場合に限り、事務局は氏名・メールアドレス・住所等の情報を当該委員会に提供する」

2. 各種委員会報告

【学会誌編集委員会】相沢直樹委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 会誌 52 号が刊行された。
- ・ ホームページ上の規定（日本語 2 件、ロシア語 3 件）の修正を行った。
- ・ 会誌 53 号の投稿募集を例年より前倒しして大会前に開始する。

【国際交流委員会】楯岡求美委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 新型コロナウイルス感染症による諸状況により、今年度大会での国際枠の募集は中止し、来年度については状況によって検討する。
- ・ 配布資料に基づき、国際交流助成の募集要項の改定について以下の報告が行われた。

「(1) 国際学会等での報告に関する助成について」

日本国内において開催される国際学会や、留学等で国外に滞在する場合に遠隔地で開催される学会等への参加旅費も含め、「国内旅費」についても 1 名当たり 2 万円を上限として助成対象とする。

「(2) 公開研究会・(ミニ) シンポジウム等の実施に関する助成について」

助成対象となる企画の時期が曖昧になっていたが、渡航同様、過去に実施した企画を対象とする。

【広報委員会】本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・ 学会 HP のプラットフォームの移行作業と管理運営の担当者の変更について、作業が遅れているものの、大会終了後に作業を進める。
- ・ 前回大会から、HP の更新は 133 件でほぼ例年並み、ML の配信は 81 件で例年より 20 件ほど減っている。

【社会連携委員会】坂庭淳史委員長から、配布資料に基づき、日本ロシア語教育研究会 2020 年研究集会を日本ロシア文学会として共催することが報告された。

【大会組織委員会】貝澤哉委員長から、大会で開催予定だったワークショップ 1 件について、他の学会と題名・演者が重複していることが判明したため、大会組織委員会で議論の結果、プログラムから取り消す決定をしたことが報告された。

【大会実行委員会オンライン班】中村唯史班長から、オンライン班の委員構成が報告され、会場係の方のお名前を挙げて謝意が述べられた。

委員

中村唯史（班長）、青山忠申、秋山真一、安達大輔、楯岡求美、本田晃子、宮内拓也、八木君人、渡部直也
会場（ミーティングルーム）の設営・運営に携わってくださった方

阿出川修嘉、小椋彩、越野剛、古宮路子、坂庭淳史、佐山豪太、竹内恵子、鳥山祐介、毛利公美

3. 支部会の今後について

三谷恵子会長から、東北支部長谷川章支部長からの現状報告と問題提起を受け、支部会の今後について各支部・理事会で今後検討する方針が報告された。

4. 学生会員制度の導入可能性について

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、学生会員（修士課程会員）の制度を設けることについて今後理事会で検討することが報告された。

5. 日本学術会議問題の理事会声明について

三谷恵子会長から、日本学術会議より第 25 期会員候補者として推薦された 105 名の研究者のうち 6 名が、

内閣総理大臣により任命されない事態が生じたことに対し、2020年10月8日（木）－10日（土）にかけてメール審議による緊急理事会を開催し、さまざまな意見交換の結果、理事会声明を出すに至ったことが報告された。

6. 他の学会活動報告

① 「ロシア文学大事典」編纂ワーキンググループから

中村唯史 WG 座長から、日本ロシア文学会編『ロシア文学大事典』の進捗状況について、原稿の集まりが人名篇6割、事項篇7割にとどまっているとの報告が行われ、督促が行われた。

7. JCREES 報告

三谷恵子会長から、スラヴ・ユーラシア研究東アジア大会は、2021年はICCEESと重なるため開催しないこと、2022年の開催校については未定だが、中国が有力であることが報告された。

8. その他

特に無し。

● 審議事項

1. 2019/2020 会計年度決算および会計監査報告

事務局（庶務会計）野中進から、配布資料に基づき、木村崇・諫早勇一監事の監査を受けた2019/2020会計年度決算および会計監査報告が行われ、これが承認された。この際、特別会計における「学会費補助」の項目は会計上混乱を招くため不要であり、執行0円としたこと、また今後は大会準備費には大会資料集の印刷費を含めず費目を分けることが報告された。

2. 2020/2021 会計年度予算案

事務局（庶務会計）野中進から、配布資料に基づき、2019/2020会計年度決算案・2020/2021会計年度予算案の提案があり、これが承認された。この際特別会計における「学会費補助」の項目は2020/2021会計年度から廃止することが決まった。また今後は予算の精査を行うことが報告された。

3. 総会議長団選出の手続きについて

事務局（書記）安達大輔から、配布資料に基づき、現状に合わせた議長団選出手続きを日本ロシア文学会会則で規約化することについて提案があり、これが承認された。

4. 「会費減免に関する申し合わせについて

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、2020年7月の理事会決定を受けて「会費減免に関する申し合わせ」を改訂することが提案され、これが承認された。

5. 顧問について

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、顧問について以下の提案があり、これが承認された。

1. 米川先生ご逝去により、現在、本学会顧問は佐藤純一先生一名となったが、複数名の顧問がいることが理事会運営上望ましいと考えられるため、あらたに顧問を選任する。
2. 顧問選出内規を改訂する。

6. 2021年度全国大会について [会長：三谷恵子]

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、2021年度全国大会について、会場校を筑波大学とすること及び大会組織委員会・大会実行委員会委員の提案があり、これが承認された。

7. 2020/2021年度役員・理事・各種委員一覧

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、2020/2021年度役員・理事・各種委員一覧の確認があり、関西支部に転出した高橋健一郎理事に代わる理事1名の選出について北海道支部に一任することが承認された。

8. その他

① 事務局の交代について

三谷恵子会長から、今年度総会を以って野中進が事務局（庶務会計）を退任し、新たに秋山真一が就任することが報告され、両氏から挨拶があった。

① その他

特に無し。

● 議長団解任・閉会の辞

議員団が解任され、貝澤哉副会長が閉会の辞を述べ、閉会となった。

3. 10・12月理事会関連事項

10月理事会は10月24日（土）、12月理事会は12月19日（土）に、ともにZoomによるオンラインで開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

10月理事会（前節の総会報告を参照）

12月理事会（以下敬称略）

議事に先立ち三谷恵子会長から、配布してある前回理事会及び総会（2020年10月）議事録の確認が行われた。

報告事項

1. 事務局報告

- 書記安達大輔から、配布資料に基づき、Google Drive 上の共有ファイルによる出欠連絡で若干の不具合（該当ページが開けない、出欠表に記入できない等）があったこと、またこのことへの対策として次回理事会から出欠連絡に Google フォームを使ったアンケート方式を採用することが報告された。
- 庶務会計秋山真一から、配布資料に基づき、会員異動（2020年10月～2020年12月）について以下の報告が行われた（敬称略・五十音順）。

○逝去（正会員1名）

山口巖

ご冥福をお祈りいたします

○退会者（正会員1名）

桑野隆（11月10日付）

現在の会員数 442名

賛助会員 18団体

- 庶務会計秋山真一から、配布資料に基づき、学会財政レポートが行われた。
- 庶務会計秋山真一から、学会の予算を管理している口座について、これまで一般会計・特別会計・基金の

3口座が存在していたが、このうち一般会計と特別会計の口座を一本化することが報告された。特別会計は性格上、若手支援（学会費補助・旅費の補助・若手ワークショップの事業費など）を目的としているため、維持会費のみを収入としているが、これまで別口座で管理していた。決算報告と予算はこれまで通り一般会計・特別会計を分けて計算・公表するが、口座については振り込みの手間などを考えて一本化するに至った。

2. 2020/2021 年度役員・理事・各種委員一覧 [会長：三谷恵子]

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、北海道支部の岩原宏子理事の選出および西日本支部の佐藤正則支部長・事務局長への交替が報告された。

3. 各種委員会報告

【学会賞選考委員会】ヨコタ村上孝之委員長から、2021年1月31日を締切として学会賞の推薦受付が開始されたこと、現時点で推薦は届いていないことが報告された。

【学会誌編集委員会】相沢直樹委員長から、配布資料に基づき、11月末に締め切られた会誌53号のエントリー状況について報告が行われた。

【広報委員会】本田晃子委員長から、以下の報告が行われた。

- ・学会HPのプラットフォームの移行作業と管理運営の担当者の変更について、作業が遅れているものの、大会終了後に作業を進める。
- ・前回2019年12月理事会から、HPの更新97件、MLの配信81件。例年より減っており、新型コロナの影響と推測される。
- ・学会HPの新プラットフォーム（WordPress）への移行について、以下の行程で進める。1月中に準備、2月に実際の移行作業を進め、併せて各種委員長に掲載情報の確認を行う。3月中に試験運転、新年度4月1日から完全に切り替える。

【日本ロシア文学会大賞選考委員会】服部文昭委員長から、配布資料に基づき、大賞の改革改善に向けて、大賞選考委員会内の議論を反映した情報の共有と問題提起が行われた。

4. その他

特に無し。

審議事項

1. 2020年度第70回大会組織委員会の総括

2020年度大会組織委員会員澤哉委員長から、配布資料に基づき、1. 組織委員会活動報告 2. 申請と採否 3. 総括と問題点から成る大会総括が行われた。プレシンポジウムについては、取りまとめを担当した大会組織・実行委員会楯岡求美委員から、中止に至った経緯について補足が行われ、同プログラムについては将来的な開催を検討していることが報告された。以上が承認された。

2. 2020年度第70回大会実行委員会

- ・2020年度大会実行委員会ヨコタ村上孝之委員長から、大会総括が行われ、大阪大学の大会準備と資料集の作成について報告が行われた。会計報告では、大会関連で下記表のような余剰金が発生したこと、次回2021年度（筑波大学）大会実行委員会への送金方法については今後検討することが報告された。以上が承認された。

	2019年度（早稲田大学） 大会実行委員会からの 引き継ぎ金	2020年度大会での使用 額【用途】	2021年度（筑波大学）大 会実行委員会への引き 継ぎ金
大会準備金の 余剰金	110,561	1,022 【学会賞の賞状作成と 郵送】	109,539
懇親会の 余剰金	74,000	0	74,000

（単位：円）

- 2020年度大会実行委員会オンライン班中村唯史班長から、2020オンライン班引継ぎ文書（配布資料）に基づき、●オンライン班のメンバー●準備方針●オンライン実施に伴う措置●問題点と総括について報告が行われ、これが承認された。

3. 2021年度第71回大会について

- 2021年度大会組織委員会員澤哉委員長から、例年であれば4月から大会組織・実行合同委員会の会議や会場の下見などがあるが、現在の状況ではメールやZoomで大会準備を進める可能性もあることが報告され、これが承認された。
- 2021年度大会実行委員会白山利信委員長から、配布資料に基づき、大会準備状況について以下の報告が行われ、これが承認された。

○開催日程については、以下の順で候補が提案された。

①10/29-31 ②11/12-14 ③10/22-24 あるいは 11/19-21（11/5-7は学園祭のため使用不可）

○施設については、現時点では、COVID-19の感染拡大の影響で学会などのイベント開催のための学内施設の使用はすべて禁止、使用可能時期については未定。

○施設利用が可能になった前提でのシミュレーションが以下のように報告された。なお施設使用料については、大学が共催する場合も必要で、割引が効かない状況であるが、この支出について理事会では問題にしないことが確認された。予約キャンセル料は無料であることが確認された。

キャンパス	筑波キャンパスを予定 ・ 施設使用料が割安（40万円程度）で、かつ感染症対策のための広い教室を有する ・ 秋葉原駅→つくば駅 40-45分+バス 10分程度（利便性では東京キャンパスが有利）
プレシンポ、大賞 記念講演会場	大学会館（500名収容）を予定
発表・各種委員会 会場	総合研究棟Aを予定（大学会館から徒歩7-8分）
懇親会会場	大学会館近くのフレンチレストランを予定（4000円で飲み放題）

○その他、以下の点が確認された。

- 開催方式を対面・オンラインどちらにするかの決定時期は、7月理事会の前を一つの目安としつつ、状況を見ながら判断する。ハイブリッドについては、白山委員長および三谷会長から、技術、設備や会場確保、トラブル対応の面で難しいという発言があった。
- オンライン方式の大会を開催する場合、大会の準備・運営体制については組織・実行委員会で状況に

あわせて随時検討する。

- ・ オンライン方式の大会を開催する場合、海外研究者に積極的に参加を呼びかける。

4. 会誌 PDF の web 公開時期について

学会誌編集委員会相沢直樹委員長から、配布資料に基づき、今秋刊行された 52 号以降についても、12 月末までに J-STAGE 上で公開、4 月初めに学会 HP 上での公開という方針で進めることについて確認があり、これが承認された。

5. 国際交流助成の公募

国際交流委員会楯岡求美委員長から、配布資料に基づき、2020-2021 年度の国際交流助成の公募案について諮られ、これが承認された。

6. 2021 年の会長選の選挙管理委員会の選出について

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、前回 2017 年会長選の進行が確認されるとともに、5 月中に各支部長から各 1 名の選挙管理委員候補（計 6 名）を推薦していただくようお願いがあった。なお確認事項として、以下が承認された。

1. 総会がオンラインで開催される場合、第二次投票はオンライン投票になる。
2. 投票書類一式は、学会誌や大会資料集などと一緒ではなく、単独で、前年度総会時点での会員のみへ発送する。

7. 日本ロシア文学会顧問の推薦について

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、2020 年 10 月 31 日の総会で承認された顧問選出内規に基づき以下の順位で顧問の候補を推薦することが提案され、これが承認された。なお注意すべき点として、理事と顧問は兼務できないことが確認された。

1. 井桁貞義氏（日本ロシア文学会元会長、第 1 回学会大賞受賞者）
2. 望月哲男氏（日本ロシア文学会前会長、学会への多くの貢献）
3. 諫早勇一氏（日本ロシア文学会元副会長、事務局などを歴任、学会への多くの貢献）
4. 沼野充義氏（日本ロシア文学会元会長、学会への多くの貢献）

8. 名簿問題について

三谷恵子会長から、試案（配布資料）に基づき、名簿問題について以下のように各支部からの意見の聴取が行われ、7 月理事会で引き続き議論することとなった。

北海道支部	名簿取りやめに強い反対はないが、必要な情報を入手するための別のシステムは必要。
東北支部	試案に強い反対はなし。
関東支部	今後意見を取りまとめる。
関西支部	最小限の情報（氏名・支部・所属・メールアドレス・専門）が掲載された名簿は必要。
西日本支部	名簿に対して積極的な賛成・反対の意見はなし。

9. 支部会の今後について

三谷恵子会長から、支部会の今後について以下のように各支部からの意見の聴取が行われた。これを受けて、配布資料に基づき、日本ロシア文学会の支部体制の今後について、学会全体の将来の運営のあり方も視野に入れて協議するため、支部連絡会を設置することについて提案があり、これが承認された。

北海道支部	院生・若手研究者の減少は見られるものの、会員数 40 名程度であり当面の支部活動は可能。
東北支部	数年以内の統廃合を希望する。時期・統合相手については今後検討。
関東支部	①支部制の廃止②支部の統廃合③東北支部と他支部の統合の 3 案を基に議論を行った結果、②③について支部ワーキンググループを作って検討することが提案された。
中部支部	会員が 30 名未満でその半数以上が会友（非会員）。院生・若手研究者も存在しないため、研究発表会は最近は行われていない。関東か関西との統合を希望。
関西支部	支部制を維持しつつ統廃合を進める。支部制廃止という少数意見もあった。
西日本支部	積極的な意見はなかったが、統廃合はやむなしという趨勢。

10. 学生会員制度について（案）

三谷恵子会長から、配布資料に基づき、学生会員制度について提案があった。これに対して、学会発表申請にさいしての指導者の所見について、ハラスメントにつながりかねないとの指摘があり、7 月理事会で引き続き議論することになった。また学会発表の質を確保することに留意することが確認された。

11. 若手ワークショップの募集及び若手・常勤職にない方の支援について

三谷恵子会長から、今年度も若手ワークショップの募集を行うことについて提案があり、これが承認された。続いて若手・常勤職にない方の具体的な支援方法について議論が行われ、支援組織や若手用研究会の立ち上げ、学会賞の増設などの意見が出され、7 月理事会で引き続き議論することになった。

12. スラブ・ユーラシア研究センターの共同利用・共同研究拠点推薦について

三谷恵子会長から、スラブ・ユーラシア研究センターの共同利用・共同研究拠点認定の要望について提案があり、これが承認された。

13. その他

三谷恵子会長から、次回理事会を 7 月 17・18 日いずれかに開催することについて提案があり、これが承認された。

前回開催の理事会・総会の議事録が異議なく確定された。

4. 会員異動（2020 年 1-12 月）

ご逝去：山口 巖様、米川 哲夫様

入会（敬称略）：黒川 友文（関東）、五月女 颯（関東）、安島 里奈（関東）

退会（敬称略）：青木 正博、河島 孝子、桑野 隆、武田 清

（いずれも五十音順）

5. 新役員・委員（敬称略）

会長	三谷恵子（2017年全国大会～2021年全国大会）
副会長	貝澤哉、中村唯史（2019年全国大会～2021年全国大会）
事務局	秋山真一（2020年度全国大会～2024年度全国大会） 安達大輔（2018年度全国大会～2022年度全国大会）

理事（2019年全国大会～2021年全国大会）

北海道支部	宇佐見森吉（支部長）、岩原宏子〔事務局長：大西郁夫〕
東北支部	長谷川章（支部長）〔事務局長：川辺博〕
関東支部	沼野恭子（支部長）、秋山真一、朝妻恵里子（事務局長）、大須賀史和、鴻野わか菜、寒河江光徳、高橋誠一郎、鳥山祐介、沼野充義、野中進、乗松亨平、宮澤淳一、村田真一、八木君人
中部支部	杉本一直（支部長・事務局長）、中澤敦夫
関西支部	中村唯史（支部長）、藤原潤子、横井幸子、ヨコタ村上孝之〔事務局長：服部文昭〕
西日本支部	佐藤正則（支部長・事務局長）

顧問	佐藤純一
監事	諫早勇一、木村崇
JCREES 幹事	三谷恵子

各種委員会（2019年全国大会～2021年全国大会：*は2020年度大会～2021年度大会）末尾カッコ内は委員委嘱・選出規約

編集委員会	相沢直樹（委員長）、阿出川修嘉、大平陽一、大森雅子、高柳聡子、田中大、松本賢信、三好俊介
学会賞選考委員会	ヨコタ村上孝之（委員長）、郡伸哉、中澤敦夫、八木君人、柳町裕子
国際交流委員会	楯岡求美（委員長）、北井聡子、グレチコ フレーリー、越野剛、高橋健一郎、武田昭文
広報委員会	本田晃子（委員長）、岩本和久、梅津紀雄、梶山祐治、古賀義顕、寒河江光徳
社会連携委員会	坂庭淳史（委員長）、小川佐和子、北見諭、黒岩幸子、佐山豪太
倫理委員会	佐藤千登勢（委員長）、大西郁夫、岡本崇男、小椋彩、コベルニック ナディア
大賞選考委員会	服部文昭（委員長）、相沢直樹、貝澤哉、坂庭淳史、佐藤千登勢、楯岡求美、中村唯史、本田晃子、三谷恵子、ヨコタ村上孝之

2021 大会 組織委員会*	貝澤哉（委員長）、白山利信、鴻野わか菜、楯岡求美、ヨコタ村上孝之
2021 大会 実行委員会*	白山利信（委員長）、安達大輔、梶山祐治、加藤百合、笹山啓、楯岡求美

6. その他

○日本ロシア文学会大賞受賞記念講演 第7回日本ロシア文学会大賞に中澤敦夫氏が選出され、日本ロシア文学会大賞受賞記念講演「『イーゴリ軍記』をめぐる〈てんやわんや〉から研究テーマを選ぶことについて考える」が2020年10月31日（土）から11月30日（月）まで、YouTube上で一般公開されました。この受賞記念講演の内容は学会ホームページ及び『ロシア語ロシア文学研究』第53号に掲載予定です。学会ホームページには中澤氏の授賞理由、受賞のことばも掲載されています。

7. 事務局からのアナウンス

○理事会では名簿、支部会の今後、学生会員制度といった重要問題を検討中です（総会報告事項1, 3, 4及び12月理事会審議事項8, 9, 10をご参照ください）。以上についてご質問やご意見がある場合は、各支部あるいは全国の事務局までご連絡ください。

○就職等に伴って支部を移る際には、会員ご本人が全国の事務局までご連絡ください。その後の支部間の連絡や調整については事務局で手配いたします。各支部での周知の徹底をお願いいたします。

○これまで学会の資金は基金・一般・若手支援のそれぞれの目的別に3つの銀行口座で運用してまいりましたが、会計事務作業の簡略化を図るため、若手支援用の口座を一般の口座と同一にし、計2つの銀行口座に集約いたしました。なお、毎年度の予算および決算はこれまで通り、一般と若手支援を別々に報告いたします。

会費督促についてのお知らせとお願い

事務局（庶務会計）からのお知らせとお願いです。2月中旬より未納会費の督促を行っております。会費滞納のある方は、至急お支払いいただきますようお願いいたします。振替用紙がお手元にない場合、郵便局に備え付けの振替用紙をお使いください。（加入者:日本ロシア文学会、口座番号:00100-7-6507）

なお、2020/2021年度にご入金いただいた場合でも、それ以前の年度に滞納があれば、ご入金分は以前の年度の滞納分に充てられますので、「2020/2021年度分滞納」という督促が改めて届くこととなります。ご了承ください。

すべての学会活動は皆様にお納めいただく会費によって成り立っております。ご理解・ご協力をお願いいたします。

○学会ホームページでは、学会内外で行われるロシア語・ロシア文化全般に関する催しについての案内を積極的に掲載しておりますので、適時閲覧して頂ければ幸いです (<http://yaar.jp.org>)。

○現在、事務局から会員への連絡は、一部を除き一斉メールで行っております。まだ連絡用のメールアドレスを事務局にお届け頂いていない会員におかれましては、ご自身のメールアドレスと氏名を事務局にご送信下さい (yaar@yaar.jp.org)。また、お知合いの会員でメールによる学会連絡のない方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

○『ロシア語ロシア文学研究』52号（2020年）がお手元に届いていない会員の方は、現在のご住所（郵送先）を事務局にお知らせください。また、お知合いの会員でそのような方がいらっしゃいましたら、事務局あてにご一報くださるよう、お勧めください。

8. ご訃報

○本会会員で、元会長の川端香男里氏が2021年2月3日（水）にご逝去されました（享年87歳）。通夜・葬儀につきましては緊急事態宣言下を考慮し、家族葬にて執り行われました。ご香典、ご供花等のご辞退されるということです。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

日本ロシア文学会会報 第50号（2021年2月16日発行）

発行人 三谷恵子 編集人 日本ロシア文学会事務局

〔書記〕 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 安達大輔研究室内

〔庶務会計〕 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学外国語学部 秋山真一研究室内

E-mail : yaar@yaar.jpn.org（共通）